

○共立女短大家政 細江容子 お茶の水女大家政 袖井孝子 漢陽大家政 徐 炳寂  
實踐家専家政 鄭 寂子 お茶の水女大家政 保坂久美子

結果：老親への責任意識である同居意識、扶養意識、介護意識は全体として強いが、日本・台湾・韓国の比較でみた場合、同居意識は韓国が特に強く、全体の7割が同居志向である。これに対し、日本・台湾は5割と韓国に比べて低い。さらに扶養意識についても、日本では「どんなことをしても親を養う」という割合が4割であったのに対して、台湾では7割、韓国では6割と高い割合をしめしている。介護意識に関しても、「なにをおいても親を世話する」者は、日本では6割であるが、台湾・韓国は8割と高い。親孝行については、親孝行することを子どもの時に言われたという者が、日本では1割と少ないが、台湾では5割、韓国では4割にのぼる。親孝行を当然と感じている割合も日本では7割であるが、台湾と韓国では9割と高い。さらに親孝行をどのように考えているかについては、日本の学生は「自分が自立し親に心配をかけない」といった自己中心的親孝行意識であるのに対し、台湾や韓国においては、「親の話し相手になったり、親と頻繁に交流する」といった相互作用的親孝行意識が強かった。

同居意識を規定しているのは、日本・台湾・韓国とも本人の続柄であり、長男において最も同居意識が強い。扶養意識、介護意識に関しては、台湾・韓国の場合親孝行への態度に示される規範的要因との関連が強いといえる。日本の場合、規範的要因とのかかわりも認められるが、本人の家族への満足度も重要な規定要因になっており、台湾・韓国に比べ情緒的要因との関連が強いと言える。